

シンガポール経済セミナーを開催しました！

交流支援部経済交流課

平成 26 年 10 月 9 日（木）自治体国際化協会 1 階大会議室にて「シンガポールの経済成長戦略と日本の地域産業の可能性」という演題で、元駐日シンガポール公使 顔 尚強氏にご講演いただきました。

顔氏は、日本の大学を卒業され、また日本企業に勤められた経験もお持ちで、当日も日本語でご講演をされたほど日本に通じていらっしゃるようで、日本の地域産業の発展のための施策の参考になるような貴重なお話を伺うことができました。

講演内容の概要は以下の通りになります。

『シンガポールの経済政策の柱としては、まず外資誘致による工業化が挙げられます。

誘致する産業は、段階的に変わってきており、

- | | | |
|-------------------|---|--------|
| 第一段階（1959年～1972年） | — | 労働集約産業 |
| 第二段階（1973年～1985年） | — | 技術集約産業 |
| 第三段階（1986年～1997年） | — | 資本集約産業 |
| 第四段階（1998年～2007年） | — | 知識集約産業 |
| 第五段階（2008年～） | — | 革新型産業 |

以上の5つの段階により、単純な製造業から付加価値の高い石油化学、電子工業、製薬業、クリーンエネルギー産業へと切り替えてきました。

この結果、現在、たくさんの外資系企業がシンガポールを生産拠点にして輸出入活動を行っており、シンガポールは中継貿易港から発展して、物流ハブへと邁進しています。

もうひとつの柱がG L C（政府関連企業）の存在です。

シンガポールでは以前から不評だった国有企業の対策に着手して、国有企業の積極的な民営化を図りましたが、その過程でG L C企業（政府系企業）があらゆる産業に進出する結果になり、外資企業と共にシンガポール経済の基と言えるまでになっています。

今後、シンガポールとして期待する産業は、保健、IT、アニメ、クリーンエネルギー、宇宙等に係わる産業だと思えます。

また、シンガポールは、エリート官僚によって経済発展を推進してきており、それが大きな原動力になっているのも特徴です。』

熱のこもった講演に、活発な質問も行われました。

「日本の活性化のためには地方にがんばってもらわなければならないが、そのためにはどんな産業に力を入れたらいいのか？」という参加者からの質問がありました。顔氏からの回答は、「シンガポールは観光資源も食も日本に比べると魅力的ではない。それでも、あれだけの観光客が来るのだから、やはり観光を推進すべきだろう。」という頼もしい回答をいただきました。